

～夢の掛け橋募金による持続可能な社会づくりプログラム～

## 第14回 聞き書き甲子園フォーラム が行われました

2016年3月27日（日）  
@東京大学 弥生講堂一条ホール

ファミリーマートは店頭募金「夢の掛け橋募金」では国土緑化推進機構を通じて、将来世代育成に取り組む認定NPO法人共存の森ネットワークを2006年より支援しています。毎年日本全国から選ばれた高校生100名が、森・海・川の名人を訪問し、その知恵や技術、人生そのものを「聞き書き」、記録する活動として「聞き書き甲子園」を行っています。2015年度も100名の高校生が参加し、名人から話しを伺う「第14回聞き書き甲子園」を実施しました。2016年3月27日に活動の成果の報告会であるフォーラムが東京で行われました。



### 名人から自然との共生の暮らしを学び、価値観を継承するプログラム

日本では古くから、森や川、海の自然を守り育て、その恵みを得る中で、自然との共生を図り、持続的に暮らす知恵や技を培ってきました。しかし、現代文明の発展に伴い、人と自然の関わりが薄れていった結果、自然崩壊、生物多様性の減少といった環境問題が発生しています。

「聞き書き甲子園」は、造林手、炭焼き職人、木地師、漁師、海女など、長年にわたり森や海・川に深く関わってきた名人を通して、伝統的な暮らしをもう一度見つめ直し、自然と共存する暮らしやその価値観を次世代へ継承し、持続可能な社会づくりを行うことを目的として実施しています。

日本全国の高校生100名が参加するこのプログラムは事前研修、計画づくり、訪問・取材を通して、森・海・川の名人と世代を超えた交流から、森林や海からの豊かな恵みやそこに暮らす人々の営み、地域の伝統・文化などについて学び、最終的にレポートにまとめ、その成果をフォーラムで発表します。

#### 第14回「聞き書き甲子園」の流れ

- ◆2015年7月～8月 参加者事前研修
  - 「聞き書き」の手法を学び、実習をする
  - 「名人」の知恵や技について学ぶ
- ◆2015年9月 計画づくり
  - 「名人」の技について調べる
  - 「名人」に質問する内容を考える
  - 「名人」を訪問するための交通手段を調べ、「名人」に連絡し、訪問する日時を決める
- ◆2015年9月～12月 「名人」を訪問・取材
  - 「名人」を訪ね、インタビューし、言葉を録音する
  - 「名人」の仕事の様子などを写真に撮る
  - 取材した録音テープを書き起こす

◆2016年1月 レポートづくり

◆2016年3月 成果の公表・フォーラム



開催されたフォーラムの様子



名人に話しを聞く高校生



## 表彰式 名人と高校生へ

### ～高校生「聞き書き修了証書」・「優秀作品賞」授与～

「森の名手・名人」とは、長年、森と関わり、森とともに生き、昔から日本人が伝えてきた知恵や技、心、ご自身の体験や経験とともに先人達から受け継いできた人たちです。樵、造林手、炭焼き、山菜採り、木地師、カヤ葺き職人、竹籠づくりなど、森林に携わる職種は数多くあります。

「海・川の名人」とは、漁師や海女、船大工や釣竿づくりの職人、海や川の食文化や生活文化を継承する人や、海や川の環境保護など、豊かな海や川を守るために活動を続ける人たちです。

名人にインタビューをし、その録音した会話の一言一句を書き起こし、名人の語り口調を活かしながら作品をまとめた高校生たちに「聞き書き修了証書」「優勝作品賞」を授与しました。

高校生は「聞き書き」の過程で何度も名人の言葉を聞き直し、書き起こす作業を続けるうちに、「名人」の価値観や想いを受け止めていきます。



「聞き書き修了証書」授与、「優秀作品賞」表彰の様子



発表を聞き入っている高校生たち



## 体験談 名人と高校生より

### ～“森・川・海の名人”から教わったこと～

名人と高校生の3組が代表として、名人が先祖から引き継ぐ物語から、こだわり、極める技術、そして高校生の取材のプロセスの体験談を語りました。

先祖から引き継ぎ始めた技術は何十年に磨きを通して人生そのものになり、一家を挙げて取り組む先人もいれば、後継ぎに悩む先人もいるようでした。

興味から募集してきた高校生は名人の言葉を受け、森や海、川、名人の住む日本の農山漁村の暮らしに関心を持ち、自然と人の暮らしのつながりや、その後の将来を考えるようになったと語りました。

「聞き書き甲子園」は世代を超えた交流を通じて、森・海・川といった自然、そして世代を超えた人と人とのつながりの大切さを知り、そこから人と自然が共存する持続可能な未来を築いていきます。時代の変化も的確に捉えながら、新しい価値観やライフスタイルを創造し、それぞれの思いや知恵、ノウハウを持ち寄って行動するプラットフォームでありたいと願っています。



郷土玩具づくりの名人に作る様子を伺いました



取材の感想を話す高校生



炭焼きの名人が作った紀州備長炭



名人が作ったきじ馬

## ～参加した高校生たちから感想(※)が届いています～

「取材の中で名人が言った『変わるの、変えていくのは、子供達だと思  
う。』という言葉が一番印象に残っています。シンプルな言葉ですが私は、  
自分たちにも今の生活を環境を良い方向に変えていけるのではないかと。変え  
ていくのは自分たちなのではないかと考えるようになりました。  
(高知県立嶺北高等学校2年 式地七瀬さんより)

「名人への取材の中で感じたことは、「知っている」と「分かっている」は全  
く違ったと言うことです。パソコンのモニター越しにはわからない木目の神秘  
的な美しさ。カンナの重さ。肺の奥深くまで満たす作業場の木の香り。それは  
百の説明よりも雄弁に、鮮やかに名人の人生の一部を語っていました。  
(神奈川県立神奈川総合高等学校2年 荒木凧瑛さんより)



「名人の言葉で印象深かったのは『過酷に育ったものは、必ず素晴らしいものにな  
るんや』という言葉です。この言葉を聞いたとき、涙が出そうになりました。  
今までにたくさんの木に触れ、見てきた名人。  
これは木だけの事ではなく、人にもあてはまっているんじゃないかと考えました。  
楽しい事やつらい事、苦しい事、様々な思いを経験してきた名人だからこそ言え  
る言葉なんだなと思いました。  
(愛知県立田口高等学校2年 原田澗さんより)

聞き書き甲子園で得た友人というのは一生の大切な友人になると思います。北海  
道から沖縄までの高校生とは、この聞き書き甲子園がなければ出会うことはな  
かった仲間だと思います。このような経験は、一生に一度とない、私にとってす  
ばらしい経験となったと思うので、このことを忘れずに、また友人とも仲良くし  
ていきたいです。  
(神奈川県聖和学院高等学校2年 木場智花さんより)

(※)2014年度に参加した高校生の感想

## 「夢の掛け橋募金」は「聞き書き甲子園」を支援しています

ファミリーマートは、2006年度からお客さまからお預かりした「夢の掛け橋募金」の一部に、企業募金として  
(株)ファミリーマートの10%のマッチングギフトを加え、国土緑化推進機構を通じて、認定NPO法人共存の森  
ネットワークに寄付をしています。

「聞き書き甲子園」は森や海と人間のかかわり方、共生の生き方、豊かさなどについて考えることを通じて、次  
世代育成、伝統技術の発掘・継承、自然への理解の醸成などを目的としています。

今回開催された第14回聞き書き甲子園の実現は皆様のご支援によるものです。次世代育成への皆様からのご支援、  
ありがとうございました。

## 【関連ページ】

- 聞き書き甲子園ホームページ  
<http://www.foxfire-japan.com/>
- NPO法人共存の森ネットワーク  
<http://www.kyouzon.org>
- ファミリーマート夢の掛け橋募金  
<http://www.family.co.jp/company/eco/bokin/index.html>

ファミリーマート夢の掛け橋募金

皆様からのあたたかいご支援  
ありがとうございます！



ファミリーマートは、事業活動を通じて常にお客さま、地域社会、そして地球を  
幸せにする存在となることを目指します。